

1月14日生活科学科3年製菓班の生徒が卒業制作で生菓子を作り、校長室に届けてくれました。左から「栗ームチーズのタルトモンブラン」「加東市産のイチゴムース」「ポンカンのクッキーシュー」「やしら茶と小豆のミルクフィユ」です。それぞれ甘さをうまく調整しており、食材を活かしたものに仕上がっていました。23日には、販売実習を控えており、さらには22日の3学科合同課題研究発表、25日の課題研究発表会(保護者向け)に向けて最後のまとめをしています。26



日には、校外学習で「井づつや」に行き、料理を堪能してくることが予定されており、卒業後のそれぞれの進路に向けて、3年間の集大成となる期間です。体調に気をつけて最後のまとめをしっかりとってください。

さらに1月15日・16日に行われる大学入学共通テストの激励会が開催され、テストに臨む受験生が集まりました。私からは、「できる問題からする、慌てない、自分の力を信じる、休み時間の過ごし方を考える」の4点を話しました。水野主任からも思いのこもった激励があり、藤原進路指導部長から注意事項の確認がありました。例年受験会場の大学に出向き出欠点呼しながら



最後の激励をするのですが、今年は確認が必要な場合のみ許可される入場体制となり、受験会場に学年団は行くことができず、学校待機で急な連絡に対応する形となりました。17日に自己採点を実施し、出願校を最終決定します。

また1月16日には、吹奏楽部が兵庫県高等学校吹奏楽アンサンブルコンテストに出場し、銀賞を獲得したという報告がありました。なかなか観客の前での演奏ができず、多くの方に聞いてもらえない状況が続く中、日々の努力を怠らず高校からはじめた人も交えてよく頑張っています。地域のイベントもできるようになったかと思えば感染拡大が続き、活動自粛が続いています。それでも次の発表に向け準備を進め、イベント等が再開されたら是非まとまりのある音楽を響かせてください。

1月17日には、阪神淡路大震災にかかる追悼行事を行いました。朝のSHRの時間を使って、私からの話を放送で聞いてもらいました。この時期になると当時のことがつい最近あった出来事のように思い出されます。修学旅行中だった私は、体調不良の生徒を起こしに行ったときに「神戸でえらい地震や」というのを聞き、食堂の前にあるテレビに集まる生徒が注視するニュースを見て、事の大きさを知りました。私の実家も神戸市内にあり、電話はつながりませんでした(お昼くらいによやくつながりました)。本当に何もできず、すぐに帰ることすらできない状況に生徒たちも不安でいっぱいだったろうと思います。電車で帰る予定が、JRが不通になっており、バスで帰ることに。18時間かけて帰ったときには「どうなってんや。これからどうしたらええんや。」ということしか頭に思い浮かばず、次の日になったら元通りに戻ってほしいと思うばかりでした。私たちですら現実を受け止めきれずにいたので、家が潰れたり、家族が亡くなったりした生徒はもっと絶望感が強かったと思います。私も避難所となった学校で自分のできる事(炊き出しの準備や配食の際の整列、救援物資の仕分けなど)をするしかありませんでした。それでも入試が行われ、仮設校舎がグラウンドに建ち、4月になると新学期はスタートしたのです。避難された方々との共同生活は今思えば本当に貴重な経験でしたし、当時学んだ地域の方々の協力あっての学校教育活動であるという思いは今も変わっていません。毎年この時期になると同じようなことを書いているのですが、兵庫県が経験した地震の怖さ、寄り添う気持ち、支え合う大切さは引き継いでいかねばなりません。この地震以降の自然災害の際には必ず兵庫県のボランティアの経験が活かされるようになりました。社高校も募金活動や東北支援活動はしていますが(この2年間新型コロナ感染拡大でできていません。)、災害に見舞われた地域があれば一人ひとりができる支援をし、その教訓を自分たちの生活に活かし防災の意識を高めることでさらに阪神淡路大震災の経験が引き継がれていくものと考えています。よろしくお願いします。

新型コロナ感染拡大が一気に進んできました。感染防止対策をしっかりと、体調管理に努めてください。